

略歴

私は、クワズルナタル大学の上級教授を務めております。私はアフリカにおけるソーシャルワークの発展や、南アフリカにおけるアパルトヘイト後のソーシャルワークの政策と基準策定などの全国的な構造づくりの最先端に係わってきました。南アフリカソーシャルワーク教育連盟の会長、また、人種の区別なく統合された初の団体である全国ソーシャルワーカー協会の会長を務めております。2000年には IASSW 理事会に参画し、候補者選定委員会、キャサリンケンダル賞委員会、ソーシャルワーク教育・養成に関する IASSW/IFSW 合同委員会の代表を務めました。IASSW の会長職に選定されたことは光栄なことでしたが、より強力な候補者であったアンジー・ユアン氏が会長となりました。ダーバンで開催された第 34 回国際ソーシャルワーク大会の組織委員会の代表として、また、2009 年 10 月に開催された南アフリカソーシャルワーク教育機関連盟 (ASASWEI) と南アフリカソーシャルワーカー協会 (NASW,SA) の初の合同会議のための LOC 代表としても貢献いたしました。

IASSW における活動目標と展望

国際ソーシャルワーク理事会において貢献するためには、皆をリードしつつフォローをすることができると考えます。私はその両方の特質を兼ね備えています。私は明確なビジョンを持ったリーダーシップを発揮できますし、すぐれたものにするための堅実な努力を行い、傾聴し、協働し、対話を交わすといった力を信じています。違いを産み出そうとする一人一人の力を信じる一方で、世界をより良くしようとする大勢の人々の力を、より一層信じております。選出された際には、各国、各地域、そしてグローバルなレベルにおいてソーシャルワーク教育・養成を促進させ、IASSW の使命を全うしていくために、理事会や国際的な協働者である皆様の知恵と技能とを寄せ集めて参りたいと思います。多様な歴史、政治、社会経済、文化的な状況に関係なく、ソーシャルワーカーとして、世界をよりよいものとしていく努力によって、公正さと尊厳をもってあらゆる人々を扱うことによって、そして、現状の反映を強調した改善を目指すソーシャルワークによって、世界における新たな公共管理とネオリベラルな実践へと常に私たちを押し出すそのプロセスに関心を払い、従事するという事を通して、私たちは繋がっています。

私は、こうしたことを自らの影響の及ぶ範囲において—その範囲が社会の様々なレベルにわたることを願っておりますが—マクロなレベルにのみ限定しない平和、人権、社会正義に関する課題に対して、最大限の努力を行っていきます。マハトマ・ガンジーによる言葉に、「国々の間にある平和とは、個々人の間にある愛という堅い基盤(恐らくは尊敬の念がそうするのだろう)の上に成り立つものである」というものがありますが、これは最も適切にまとめられた倫理といえます。理事会の一員として、私はガンジーによる「世の変化をみたいと思うのであれば、私たちがその変化の源となりましょう」という布告に従いつつ、その役目を果たしていきたいと考えています。

私の目標、また理事会の目標を追求するに当たり、私は、理事会とともに、この世界をより良いものとするような代替案を見出す努力をし、人権を侵害したり、世界を破壊するような有害な行いへと対峙しつつ、人々を尊重していくことに絶えず奮闘している世界中の同志たちと協働していきます。人種、ジェンダー、性的指向性、障がいの有無、国籍などの基準が、地位、権力と資源(これらが生死の違いを産み出しているのです!)の至るところにわたって、どのように交差した影響を及ぼしているのかということを中心に留めています。従って、こうした基準に基づいた搾取や周縁化、排除に対峙していくことに献身します。IASSW の一員として、私は引き続き、様々なレベルで取り組むこと、知的議論に従事していくこと、相互利益的な交流をつくりだし、維持すること、例えば世界中で共有し得るカリキュラムや指針などの国際的なデータバンクをつくりだすこと、ソーシャルワーク教育のための世界基準を再考すること、各国、各地域、グローバルなレベルで社会正義の実現に取り組む団体や活動との連携を強化すること、そして、IASSW の倫理綱領に真の声を与えていくことに取り組みます。